



東京YMCA

2012 3 月号

発行所 公益財団法人東京YMCA 発行人 廣田光司
135-0016 東京都江東区東陽2-2-20 電話 03-3615-5562

URL <http://tokyo.ymca.or.jp>

東京YMCAの使命

東京YMCAは、イエス・キリストによって示された愛と奉仕の精神にもとづいて、青少年の精神、知性、身体的全人的成長を願い、地域社会に奉仕し、公正で平和な世界をつくるための運動を展開する。

東日本大震災 1 年

被災地からのメッセージ

We build strong kids, strong families, strong communities. YMCAは、たくましい子どもたち、家族の強い絆、支えあう地域社会を築きます。



宮城県石巻市

野田恵一さん

石巻駅前商店街でお弁当屋を営む。東京YMCAがワークキャンプで最初に尋ねた方。その後も何度か昼食をご馳走になるなど協力いただいている。

津波で家の1階天井まで浸水した。私は木の枝にすがって、50分くらい水の中につかっていた。寝たきりだった母は、津波をかぶったわけではなかったけれども、低体温症で亡くなった。ひつぎもないまま火葬場に行ったら、隣の炉に大川小学校の子がいた。よく店に来ていた、とてもいい子だった。この子を思い出して、苦悩しています。

商店街の今後を思う

4月にYMCAのボランティアに来てもらった。家族だけでドロ出している、足も腰もすぐに痛くなってしまう、はかどらないから、若い人が来てくれて、目に見えてきれいになって、元気が出た。最初は、こんなお嬢さんが作業できるのかと思っただけで、よくやってくれた。油を含んだ汚れ

なので、ガラスを拭くのも大変だったのに丁寧に拭いてくれた。トイレの掃除もしてくれて。その後も何度か来てもらった。

8月25日にお店を再開できた。山の手の人は、津波の来なかった店に買い物のままになっていて。壁紙行き、こちには来なくなつた。今はお客のほとんどが解体作業の人たちなので、解体作業が終わったかどうかと心配している。次に建築が始まればい

商店街は、もともと27軒あった店が13軒になった。いまだに商売を再開しようかどうか迷っている人も少なくない。とりあえず350円で売ってます。



茨城県ひたちなか市
橋本幸子さん

小学6年生の馨君と一緒に江東ファミリーキャンプに参加。写真はキャンプ中の一コマ。馨君も「地震で怖い思いをしたけれどその倍以上に楽しい思い出が作れた」と感想を書いてくれた。

被災者にとって、今回のスカラシップはまさに「求めているもの」だと思ひますので、どうぞ引き続き、また長く提供していただき、一人でも多くの方々に私と同じ思いを感じてもらいたいと思ひます。よろしくお願ひいたします。

スカラシップ制度を利用し、江東ファミリーキャンプに参加させていただきました。「白銀の非現実的な世界へのワープ」で、身も心も潤いを取り戻せる機会になり、大変感謝しています。私たちの住んでいる茨城県ひたちなか市では、那珂川沿岸で全壊・半壊の被害がありました。私は市役所の介護保険課に勤めており、生活するの困難な方たちを助けるために活動しています。震災で住む家を失い、老人ホーム・病院等へ生活の場を移さざるを得ない

多くの人にスカラシップを

我が家は一部損壊の扱いではありましたが、地すべりで20cmほど左半分が沈んで傾き、もう愛着を感じない位に、内外ともボロボロになってしまひ、破れたクロス、壁のゆがみと亀裂を見ているだけでストレスになります。開閉できなくなったサッシ、玄関や外壁補修などの修繕だけでも、結構な出費となりました。

そのような状況ですので、被災者は、多かれ少なかれ不満を抱えながらも暮らしているのが現状です。

宮城県石巻市

阿部安子さん

グループホーム
あゆかわの郷 管理者



震災で全壊したグループホームを、仮設住宅へ移転させ、全国から駆けつけた延べ100人のボランティアとともに運営してきた。震災後、4人が心筋梗塞などで亡くなった。現在は13人の入居者がいる。12月に「歌の広場 in 石巻」で伺った。

笑顔になれる支援がほしい

被災者が集まると、まだ「あの日」に戻ってしまひます。何度語っても語り足りないというくらいに語り続けています。10人いれば10人のエピソードがあります。そのうち、「あれからこんなことがあったね」と語れるようになってほしいですね。お手紙でもいい、笑顔になれるよう支援してほしいです。

▼「歌の広場 in 石巻」はいかがでしたか？
これまでも皆で歌を歌うという活動はありましたが、こんなのにのめりこんで歌ったことはありませんでした。普通の歌が讃美歌のように聴こえて、心にしみわたりました。私自身は大きな被害はなかったけれども、震災後「ふるさと」だけは聞けなかったです。でもこの「歌の広場」の時だけは落ち着いて歌えました。この時の写真は今でも飾っています。



(1列目左から) 小野田トキ子さん、半谷千代子さん、坂本栄子さん (2列目左から) 佐々木トヨさん、佐川ミヨさん。グランチャ東雲の手芸教室やおしゃべりサロンなどに参加されている。

福島県浪江町から

江東区に避難中のみなさん

3月12日に、私たち浪江町民は津島に避難した。津島は放射線量が非常に高く危険だといことが知らされた後、東に逃げようとした。情報も途絶えていたので、私たちは4日間津島にいて、子どもたちは外で遊び、高齢者も散歩したりして過ごした。

避難所では食べ物もなく、戦争のようだった。1ヶ月間、着の身着のまま。持ち物はハンドバック一つだけ。その後も新潟県や知人宅などを転々とした後、東に逃げようとした。情報も途絶えていたので、私たちは4日間津島にいて、子どもたちは外で遊び、高齢者も散歩したりして過ごした。

ふるさとの灯りが恋しい

でも東雲住宅は、入居した日から2年経ったら出なければならぬ。その後も行政は面倒みてくれるのか、不安で眠れない。家も財産もすべて失った。家賃を払うようになったら生活できない。病気になるからどうなるのだろう。

月間、着の身着のまま。持ち物はハンドバック一つだけ。その後も新潟県や知人宅などを転々とした後、東に逃げようとした。情報も途絶えていたので、私たちは4日間津島にいて、子どもたちは外で遊び、高齢者も散歩したりして過ごした。

避難所では食べ物もなく、戦争のようだった。1ヶ月間、着の身着のまま。持ち物はハンドバック一つだけ。その後も新潟県や知人宅などを転々とした後、東に逃げようとした。情報も途絶えていたので、私たちは4日間津島にいて、子どもたちは外で遊び、高齢者も散歩したりして過ごした。

これまで原発は安全だと思

い込まれていた。地震の時すら、原発のことは誰も心配しなかった。でも放射能は化け物ですよ。すべてのものが汚染されて逃げようがない。除染しても「いたちごっこ」にすぎない。一緒に津島に避難した幼稚園の孫が心配だ。もう福島には戻れない。

全国に散らばった福島の友人に電話することが多いので、電話代がすぐに1万2万とかかる。でも、友人の声を聞き、泣きながら電話している。福島から避難した人たちと安心する。

行政は、除染をして復興していく方向で、特別な措置を講じることなく、もう収束したかのように思っている。通学路の除染はPTAの活動として行っただけだった。でも、近くの公園はまだ0.98マイクロシーベルトだし、校庭も0.4マイクロシーベルト。来年度の学校計画では、震災前と同じように運動会やプールが予定されているが大丈夫なのか。行政がまったく行動を起こさないのか、で、だんだん、放射線のことなど考えてはいけないうる雰囲気が出てきている。個人で考えて対処するしかないが、限界がある。少しでも防護するため、お母さんたちで集まって要望書を出す活動などを始めた。これは異常だし、まだ何も終わっていないというのを皆に認識してほしい。

せめて子どもだけでも疎開させたい

震災2〜3日後に地元のテレビで、原発が爆発していることを知った。これは大変だと思い、都内の夫の実家に避難した。このまま子どもを転校させた方がいいのではないかと迷ったが、県内に両親や兄弟もいるし、住宅ローンもあるし、避難し続けることも難しい。4月に郡山に戻った。これで良かったのかどうか、親の勝手なのではないかと、今も毎日悩んだまま。うち3割ほどが転校した。転校しても戻ってくる子もいる。子どもには不安な気持ちも伝



福島県郡山市

宮崎由美子さん

3人のお子さんたちと一緒に「YMCAリフレッシュキャンプ」に参加。少しでも子どもたちを守りたいと「安全安心アクション in 郡山」をたちあげて活動中

赤三角

春。卒業・入学・就職のお祝い定番はやはり図書カードか。しかし「読書の秋」と言うし、冬のこた

つでぬくぬく

(会員部 戸坂昇子)

東日本大震災

2011支援活動ご報告と2012年度計画



昨年3月20日、支援物資とともに仙台に入り、翌週に石巻へ入った。以来私は石巻担当として支援活動を行ってきた。当初はなかなか「いま必要なこと」をお話してくださらなかった方々も、今では直接Y M C Aの携帯電話に支援を要請してくださるようになり、また久しぶりにお電話すると「何してるの、遊びに来なさい」とおっしゃっていただけるほどになった。

東京では、震災から1年がたち現地に関する報道は震災直後に比べ極端に少なくなった。「東京では石巻のことをどんな風に伝えられていますか？」と聞かれたことがあった。家や家族を失い、仕事をも失ってしまった方々が今求めていることは「つながり」ではないかと思う。報道が少なくなっても、個々の被災地に対する関心を失うことなく、つながっていること（＝忘れていないこと）はどんな支援物資よりも人々を励ますであろう。

この1年、私はさまざまな場で話を聞き、惨状を目

人の「つながり」紡ぐ支援活動

会員事務局

村上祐介

にして、心が痛み苦しくなることが何度もあった。困難な場にあって、懸命にがんばっておられる方々の姿を目の当たりにしていると、全国で頻繁に使われる「がんばろう〇〇」という標語がどのように感じ取られるか気になっている。震災後1年にわたってがんばり続けてこられた方々にとっては、「もうがんばりきれなくなる日」が来てしまうのではないか、そう思うことさえある。だからこそ、復興というゴールに向かって共に歩むこと（マラソンでいえば伴走者）が必要ではないか。私たちにできることは「喜ぶ人と共に喜び、泣く人と共に泣きなさい。（ローマの信徒への手紙12章15節）」と聖書によって示された通り、大切な家族、仕事、家屋、仲間を失った人々の心に寄り添う活動の継続ではないかと思う。昨秋には「Y M C A 石巻支援センター」を立ち上げた。拠点を通じて地域に根差し、途切れてしまったコミュニティーをあらたに作っていくことが期待されている。Y M C Aの目指す支援活動は人と人のつながりを紡ぐことだと思う。「つながり」なくして絆はうまれないのだから。

東京Y M C Aでは震災発生以降、全国Y M C Aのネットワークのもと、被災された方々の声に耳を傾けつつ、私たちができることに全力を挙げて取り組んでまいりました。お陰様で、東京Y M C Aの支援活動にたくさんの方々が賛同下さいましたことに、心から感謝を申し上げます。復興の道のりは長く、今なお被災された方々は悲しみと不安をかかえ、最低限の生活が保障されないままに過ごしている方々がたくさんいます。子ども達の未来も心配です。震災一年にあたり、東京Y M C Aは今後も中長期にわたり継続した支援活動を行っていく決意のもと、皆様に重ねてのご支援をお願いする次第です。具体的には2012年度は下記の復興支援活動を予定しており、その実現のためには、引き続き皆様のご支援と励ましが必要です。一日も早い被災地の復興のため、力を合わせてまいりたいと存じます。皆様の尊いご支援とご協力をお願い申し上げます。

総主事 廣田 光司

2012年度東京Y M C A 東日本大震災復興支援活動計画

募金目標額	1,500万円
内訳	●Y M C A 石巻支援センター 400万円 拠点運営経費（家賃、光熱水費、車両維持費、派遣費を含む） ●子ども支援 700万円 ・福島の子どもキャンプ（リフレッシュキャンプなど） ・キッズスカラシップ ・石巻でのプログラム ・国際交流プログラムなど ●ワークキャンプ（石巻他） 340万円 ●高齢者支援（仮設住宅での歌の広場など） 60万円

2011年3月～2012年1月末 東日本大震災救援・復興募金のご報告

募金総額	16,144,865円
皆様の温かなご支援に心より感謝申し上げます。	
使途内訳	●支援物資 5,434,084円 ●ワークキャンプ 2,251,203円 ●子ども・家族支援（スカラシップ、英語クラス他） 1,497,861円 ●コミュニティー支援（歌の広場、女川夏まつりなど） 1,028,487円 ●石巻支援センター拠点経費 589,058円 ●その他（全国Y M C A被災地支援会議、グリーンケア研修など） 214,005円 ●全国Y M C Aの行う支援活動へ 500,000円 ●事務局経費（通信費・印刷費等を含む） 1,614,487円 ●繰り越し金 3,015,680円 （今後3月末までの支援活動に使用し、残金は来年度に繰り越します）

グリーンキャンプフォーラム

両親を失った子どもたちに「キャンプ」ができること

さて、心理的に安心できる環境と経験豊富なプロのセラピストによるサポートが整えられた、日常から離れた場所に設ける必要がある。そこで少しずつ、グリーンが「表現」され、「共有」され、そのことを認めてもらえる経験によって、一人ひとりが自分なりにグリーンを「整理」していくことができる。同時に、キャンプが本来持っている、楽しく、うれしい時間を誰に遠慮することなく過ごすことができる。

3月下旬には、グリーンキャンプの第一弾として、両親をなくした学齢期の子どもたちを対象に台湾でのキャンプが予定されている。日常から離れ、子どもたち、スタッフ、セラピストの関係をゆるやかに築き始め、今後5年以上を目標に、長期に渡ってグリーンキャンプを実施していく予定だ。指導者の育成、セラピストとの連携、社会からの支援の獲得など取り組む課題も多いが、キャンプの可能性に期待し、Y M C Aが持つ資源を最大限に提供していきたい。

(T.Y.I.S 山根一毅)

復興・救援募金

引き続き「東日本大震災復興・救援募金」を受け付けております。ご協力をお願いいたします。

- * ゆうちょ銀行（郵便振替） 00120-7-714728 公益財団法人東京ワイエムシイエイ 東京YMCA会員事務局
 - * みずほ銀行 神田支店（普）1677931 公益財団法人 東京ワイエムシイエイ
 - * 三井住友銀行 神田支店（普）7656469 公益財団法人 東京ワイエムシイエイ
 - * 現金書留、東京YMCA各部窓口でも承ります
- 「東日本大震災」とお書き添えください。領収書が必要な方はご連絡ください。
- 公益財団法人東京Y M C Aへのご寄付は寄付金控除（税額控除・所得控除）の対象となります。（確定申告が必要です）。

職員研修報告

東陽町語学教育センター 依田あゆみ

Y M C Aで働くというって

1月23、24日の2日間には、高尾の森わくわくビレッジで行われた東日本地区Y M C Aスタッフ研修では、各地の総主事（北海道、とちぎ、埼玉、東京、横浜）、そして、日本キリスト教団早稲田教会の古賀博牧師より「Y M C Aの働きとキリスト教」をテーマにお話を伺った。各総主事からは、Y M C Aとの出会い、その後の職歴、Y M C Aのどこに魅力を感じ、長年仕事を続けてきた原動力はどこにあるのか、それぞれの「原点」となる経験を聞かせていただいた。

古賀牧師からは、Y M C Aに集う人々が「居甲斐」を感じられているだろうか？ 周囲の人に向けて、相手を認めて受け入れる姿勢を示す「肯定的ストローク」を投げかけられているのか？ Y M C Aに集う人々の様々なタレント（才能）を生かしたコーディネートが出来ているか？ 自分に与えられた経験を他者へ

と伝えていく「恵みを散らす人生」を歩んでいるだろうか？ など、スタッフとしての働き方について自問させられるような投げかけがたくさんあった。

仕事で問題を抱えた時などは落ち込んでしまうこともあるが、今回の諸先輩方が「証（あかし）」されたこと――長く活躍しておられる総主事でも、時には自信がない中で祈り、神様からの召命に答えてY M C Aでの働きを続けて来られたというそれぞれの「証」は、私達スタッフへのとても大きな励みとなった。

困難な中にも神様は確かに一人ひとりの歩みの上に必ず備えてくださるということ、そしてY M C Aで働くとは「イエスに倣い、人に仕える」とであり、仕事を頑張ろうと思えるエネルギーの源がそこにあるということ。Y M C Aで働く原点を思い起こすことで勇気を与えられる機会となった。

「あたにかいこつ、家の家族は5人、『5角のこたつならいいなあ』とおねえさん、一番あとからはいる、かあちゃん、私と同じ所、私はやつぱり、四角でもいい」

（福島県児童詩誌「青い窓」より、朝日新聞天声人語から抜粋）震災で「家族」の大切さが見直されていますが、家族の姿が変わり始めてもいまだに、長きに渡ってグリーンキャンプを実施していく予定だ。指導者の育成、セラピストとの連携、社会からの支援の獲得など取り組む課題も多いが、キャンプの可能性に期待し、Y M C Aが持つ資源を最大限に提供していきたい。

すべての人を一つにしてください

家族の暖かさを認識して

厚生労働省は2012年度の介護報酬改定で家族による自宅での介護を支援するメニューを増やしています。天声人語の「5人用」五角形在宅介護への移行を進め

キリスト教では私たちは皆、兄弟・姉妹と呼ばれています。神様の前ではみなが家族なのです。

は皆、兄弟・姉妹と呼ばれています。神様の前ではみなが家族なのです。

（総主事 廣田光司）

東日本YMCA少年少女水泳交歓会

力いっぱい泳いだ242人

2月12日(祝)に第30回東日本YMCA少年少女水泳交歓会が、東陽町ウエルネスセンターにて行われました。横浜YMCA(中央・西・北・川崎・横須賀・湘南とつか・藤沢・山手台・厚木)・埼玉YMCA(所沢)・東京YMCA(山手・東陽町)計12のYMCAより266人のエントリーがありました。当日は季節柄か、キャンセルが多くありましたが、選手達の熱気と、保護者の方々の応援により盛り上がりを見せました。(東陽町ウエルネス 山田嘉之)



12のYMCAから選ばれてきた、幼児から中学生までの242人。37人のボランティアリーダーも大活躍。

参加者とボランティアリーダーに感想を聞きました

自己ベストに満足!

小学4年生 川浪 朱理
私にとって3回目の大会でした。今までに出た大会が一番満足のいく結果が出せました。なぜかという順位も良かったこともあるけれど、自己ベストが出せただけです。私は50メートルのクロールと平泳ぎに出して2つ共自己ベストが出せ

ました。いつも練習してなれているプールだからかもしれません。
リレーでは、個人とほかがうきんちよう感があつたけど、リーダー達が応援してくれたので良い結果が出せたのだと思います。

役員を経験して

東日本YMCA社会体育・保育専門学校ボランティアリーダー 松村 佳奈

大会記録で2冠

中学3年生 浦野 颯

今年でちょうど30回を数える東日本YMCA少年少女水泳交歓会。昨年、100m平泳ぎで大会記録を叩き出した私が、今度は100mクロールで大会記録を叩きました。結果が、50m・100mの両方とも大会記録での2冠であったことは、とても嬉しく思う。応援が飛び交い、笑顔選手姿を見ることができ、役員としてこの交歓会に携わることができてよかったと思います。

教育シンポジウム

親と子の絆を安定させて

東京YMCA主催、第6回教育シンポジウムを、1月21日(土)、東雲地区に新しく開園した「しのめ」YMCAこども園を会場に、約100名の出席者を迎えて開催した。

講師は一昨年、昨年に続いて米国デンバーから、東京福祉大学名誉教授のヘネシー澄子先生をお招きし、「愛着を深めると子育てはもっと楽しくなる」と題してお話いただいた。近年、子育てに悩んでいるとお母さんが増えていると言われているが、それは『親と子の絆』が安定してないからではないか。その悩みを少しでも緩和するにはどうすれば良いか。『わが



お相撲さんが来たよ

江東YMCA幼稚園

1月26日(木)江東YMCA幼稚園では、大嶽部屋に、東になって挑戦。有志から2人のお相撲さんをお父さんもチャレンジし招きし、恒例の餅つき大会を行いました。大きな歓声の中、お父様方も一緒に餅をついて、お母様たちが準備から片付けまで、大勢の保護者にご尽力いただき、楽しい、幸せな一日となりました。(園長 駿河幸子)

疑心答をもつて終了となった。出席された多くのお母さんたちは、先生の熱いこもったお話に聞き入り、納得したように、大成功であった。この会は、東京YMCA会員部のプログラムの一つであるが、東京YMCAスタッフの有志と、会員部運営委員会とで実行委員会

百人一首大会

小学生が熱戦



1月、東雲児童館では平日の午後4時から午後5時まで百人一首練習会を毎日開き、その成果を発揮する大会として月末に大会を行った。「五色百人一首」(20首ごとに札が色分けされているもの)の使用や、プリントの配布により、効率よく上の句と下の句を覚えられ、暗記力と反射神経とスビーの問われる激しい戦いであった。(児童館 田中俊太郎)

東京170年ストバレー

時代のニーズとキャンプ

全米のYMCA共通の語は「Build strong kids・strong families・strong communities, living・Youth development・Social responsibility」となり、以前と比べより多様な方向性を示す一方では価値教育に力を入れている。ロゴマークは左記のように、また標

ある。その環境を最大限に活かし、あらゆる人たちにその時代に合わせたキャンプ体験を提供していくことが、その根幹には学ぶものが多い。2003年秋、私が初めてフロストバレーを訪れた時、ハンコスキー総主事が「近年のフロストバレーは環境教育プログラムをうべきなのかを日々考えていく」と話してくださったことを鮮明におぼえている。2001年の9・11同時多発テロという現実を受けとめ「何が正しいのか、何を信じるのか」という問いを多くの人々が痛感し、子ども達にもその問いの重要性を伝えるべきだと感じている。(在フロストバレー 三浦壮一郎)



↑日比谷図書文化館展示室の様子。江戸城の資料なども多く見ごたえがある

東京YMCA初代会館

日比谷図書文化館で常設展示

昨年11月に建替えられた、千代田区立日比谷図書文化館の常設展示室に、東京YMCAの初代会館の写真が展示された。この図書文化館は、旧・都立日比谷図書館と千代田区立四番町歴史民族資料館の機能を併せ持つ、新しい施設である。ハイテクを駆使した常設展示室には、縄文時代から近現代に至る千代田区の歴史が並ぶ。「東京基督教青年会館」の写真は、近代の町並みを表す建造物として、東京大学や東京駅、ニジョン・T・スウィフト氏コライ堂などと共に飾られている。この初代会館は、1894年(明治27年)に竣工された赤レンガの壮麗な建物で、「神田の青年会館」と呼ばれ、関東大震災で失われるまで広く市民に親しまれていた。1000人を収容で